メールでも伝えたように、卒業論文の執筆について今からできる部分について、作業を進めていくことを提案したい。この作業は、一部私の方で進めさせて頂いたが、今日のゼミを受けて変更した点を記す。

1 実験の最終目的

これに関しては、寺口君が数日以内に卒論の file に書き込むことになる。それを受けて以後議論していきたいと思う。

2 全体の構成

月曜のメールでも言ったように、予備実験についての言及もするのであれば、今のところは次のような構成の方がふさわしいと考えている。

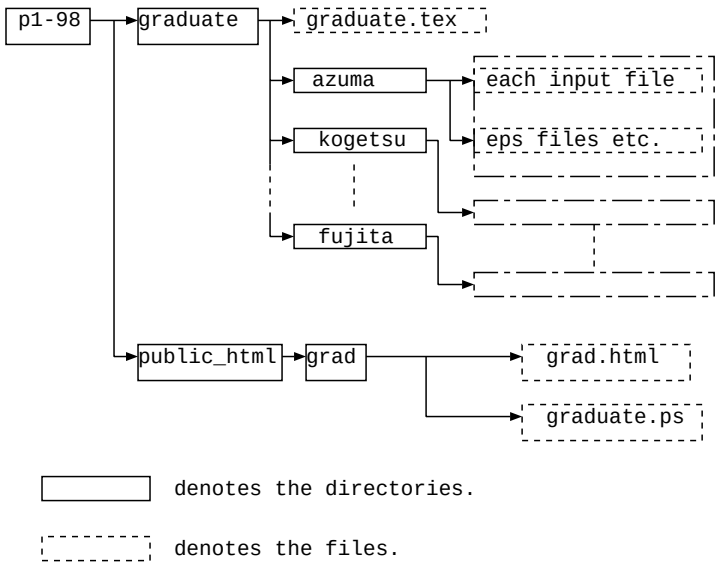
- ABSTRACT →寺口
- I Introduction →寺口
  - (1) 実験の背景
  - (2) 実験の目的
- II 実験装置
  - (1)YAG laser →古結
  - (2)Machzender 干渉計→藤田
  - (3) 非線形結晶 (type II BBO) →東
  - (4) 可変 slit →東
  - (5) 検出系
- III 予備実験について
  - (1)He-Ne 実験→高須
  - (2)LiIO3 による実験
    - (i)down conversion の観察→東
    - (ii) 干渉実験
- IV 本実験について
  - (1) 本実験の setup
  - (2) 実験の手順
- V 実験結果
- VI 結論
- VII 考察と展望
- VIII ACKNOWLEDGEMENT →みんなの投票
- Appendix A. 非線形結晶について→東
  - (1) 屈折率楕円体について
  - (2)downo conversion の数値シミュレーション

これらの項目について、以下のように分担した。

このレポートに予備実験に関する記述が必要であるかどうかについては今のところ確定していないので、ここで議論しておきたいと思う。

3 作業環境など

卒業論文の執筆は (各自の directory ではなく) 「p1-98」で作業したいと思う。



- 上図に書いたように、卒業論文の file は/p1-98/graduate/の directory においてある。
- 卒業論文の編集 file は graduate.tex とする。
- 混乱を避けるため、graduate.tex の file は、input 文によって各自の書いたものを貼り合わせる形をとる。
- 各自の名前の directory を用意したので、input file や eps file 等は各自の directory におくことにする。一部は既に私が書きかけているので、具体的な方法は既に作った、graduate.tex の file 参照。
- graduate.tex には、chapter、section までを残すことにし、それより下位の構造 (例えば subsection など) は原則として input file 内におく。
- 書きかけの論文は、http://tancho.scphys.kyoto-u.ac.jp/ p1-98/grad/grad.html のページで公開することにする。以後できるだけ、誰が何時何分に更新を行なったかはこのページに記録しておく方が混乱を防げると考える。(html file の所在は上の図に書いた通り)

文責:東　武大